

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の一員として」「安全で穏やか」「生きがい」を独自の理念として掲げている。日常生活の中で地域と関わりを持ちながら暮らしていくよう支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を共有し理念に添ったサービスが行われているか毎日申し送り時に確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所内の見やすい場所に理念を掲示している。契約時又はホーム便りなどを通じて理念の浸透を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として町内会に加入し町の各行事などにも参加している。 又地元の人達とはホームの行事などを通じて交流を深めている。 ボランティア、介護実習生の受け入れは行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価は全員で取り組んでいる。職員は外部評価の意義を理解しており客観的に評価していただくことで今後の課題を見い出し改善につなげている。	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	推進会議では自己評価表、外部評価結果も提示し説明も行っている。問題提起も行いながら意見や助言をいただきサービスの質の向上につなげている。	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村には自己評価、外部評価の結果を提出している。 又、運営のこと、利用者の個々の事情や対応についても相談している。	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	外部評価や内部研修をいく度となく実施しており職員は概ね理解している。必要に応じて対応していきたいと考えている。	
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	虐待防止については外部研修の資料等をもとに勉強会を行っている。発見時の対応や流れについてもマニュアルをつくり日々注意している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には利用者、家族の意見、要望を受け十分な説明を行い納得した上で契約を行っている。解約に際しても同様である。	
11	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の日常又は家族の面会時などに意見や不満を感じるよう心がけている。又、運営推進会議などを通じて家族の方から出された意見、苦情を検討しこれからの事業運営に活かしていくと考えている。	
12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしづくりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	通信や面会時を利用し利用者の近況を報告している。金銭管理に関しては担当が出納帳を作成し定期的に残金や領収書の報告と確認をしていただいている。	
13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	事業所内に苦情窓口を明示している。家族の方には平素から意見を言えるような関係を築くように心がけている。又出された意見に対しては話し合いの機会を設け、納得の行く形で日々の介護に反映されるようにしている。	
14	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている</p>	利用者の受け入れ決定については全体会議に図り職員の意見を聞いている。職員の意見は決定に反映されている。	
15	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	夜間のケア、緊急を要する受診、職員の急な休みなど必要に応じた職員を確保するための体制は整えられている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、配置換えはあまり行っていない。ユニット内での担当者の変更については利用者、家族に説明を行っている。又職員間での引き継ぎ事項についても詳細にわたって行い影響を最小限に防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個々の力量や経験に応じた研修に参加している。研修後は報告書を作成し伝達研修も行っている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から同業者同志の交流会が2ヶ月に1回定期的に行われることになり情報交換を行う機会が以前より増えてきていて日々のサービスの向上に役立てている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい環境づくりに努めている。休日の希望等もとり入れ優先させている。休憩時間、休憩場所の確保もできている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	労働条件は基準法に基づく就業規則によって守られている。健康診断の実施、又各自の資格取得に関する理解をもって対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>○初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていくこと等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用希望者、家族と面談し要望やニーズを伺いながらどのような支援を求めているかを把握するようしている。またホームの状態も知っていただくようしている。</p>	
22	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用希望者、家族が今何が一番必要としているか、すぐに対応できることは何かを見極め柔軟に対応している。</p>	
23	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学していただき安心し納得した上で利用していただけるようにしている。どうしても不安な方には何日か通っていただき昼食と一緒にするなど慣れていただくこともある。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>買物や食事作りなどを一緒にしながら家族的な関係を築いていきたいと思っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とはできるだけ話す機会を多く持つようにしている。互いに情報交換をしながら共に利用者を支えていくという関係づくりに努めている。		
26 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一回は面会できるようにしている。又行事などには家族の参加を働きかけている。よい家族関係を築けるように支援している。		
27 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前から関わってきた人や場所を大事に思い入所後も継続できるように支援している。		
28 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立をしないように支えている。又職員は利用者同志がよりよい人間関係を築いていけるように支援している。		
29 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も何かあったら相談に応じる姿勢を利用者家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時の情報や本人からの聞き取りによって本人の意志や思いはある程度把握できている。必要に応じて家族や以前から関わっていた方から情報をいただいている。</p>	
31	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時に家族から生活歴などある程度の情報は得ている。又これまで関わってきたサービス事業所からもできる限りの情報収集を行っている。</p>	
32	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活の中で一人ひとりの行動、言動、体調を観察し記録し感じていくことでその方の現状を把握している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の意見、要望をよく聞いたり職員の意見や気づきを話し合うなどその方にとって適切な介護計画を作成するように努めている。</p>	
34	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実施機関は6ヶ月としているが利用者の状況変化によっては随時見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に介護記録を作成し日常の介護の様子や身体状況を記録している。情報は共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族のそれぞれの事情や状況に合わせて柔軟な対応やサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、地域ボランティアの協力を得ている。また必要に応じて警察、消防署の協力を得ながら支援を行っている。		
38 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所状況や退所後のサービス利用など必要に応じて他事業所のケアマネージャーと連携しながら支援している。		
39 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例に対しては地域包括支援センター又は民生委員等の協力を得ながら支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所以前からのかかりつけ医に定期受診をしているが、緊急の場合や病気の状態によっては家族の承諾を得て他の医療機関を受診する事もある。病状については随時報告し情報の共有は図られている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と相談しながら必要に応じては専門医の受診を行っている。 認知症の専門医とは連携がとれている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態を知る看護師との情報交換や相談をしながら日々の体調管理を行っている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と情報交換し早期の退院を図ると共に退院後に備えて家族や医療機関と話し合いを持ちながら受け入れ体制を整えている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を聞きかかりつけ医とも相談しながら方針を考えていく。 急変時の対応についても、利用者家族、医療機関と話し合いを重ね意思の統一を図っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えのダメージを最小限に止めるように家族や本人に関わったケア関係者間で情報交換を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の保護について理解している。介助時の対応については、プライドを傷つけないように常識をもって配慮している。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	気に入った洋服選びや飲み物（コーヒー、紅茶、ジュース）など本人の好みのものを選択できるような場面づくりをし、本人の意思に添った生活ができるよう支援している。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の希望に添うようにと心がけている。 またそれぞれのペースに合わせて柔軟に対応している。		

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時の洋服選びやお化粧など場面に応じてアドバイスや支援を行っている。美容院などを希望される場合は対応している。		
--	--	--	--

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はできるだけ利用者の好みをとり入れている。個々の苦手なものも把握している。食べこぼしなどのサポートをしながら可能な限り利用者と一緒に食事を摂っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品は把握している。健康に配慮しながらも可能な限り提供できるように支援している。		
53 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の行動パターン把握しておりそれぞれに対応している。 排泄失敗時の対応はプライバシーに配慮しながら行っている。	○	事前誘導により排泄の失敗を減らすなど自立に向けた支援に取り組んでいる。
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は業務の都合上決められている。 夏場のシャワー浴に関しては随時対応できるようにしている。	○	随時入浴できるようにするのが理想であるが利用者の安全と限られた人員配置の面で現在は実施できない状態にある。
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後30分位休憩をとる場合が多いが本人に任せている。 夜間の安眠に関しては個々に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量、得意なものを把握している。それぞれ花の水やり、カーテンの開閉、テーブル拭き、食事の準備など役割を持っている。また、好きな散歩やドライブなども楽しめるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は出来る限り自分で財布からお金を支払うように少額の金銭管理はしていただいている。		
58 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出るのは日課になっている。 また天気の良い時はドライブや近くの公園に出かけるなど日常的に支援している。		
59 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたいところは概ね把握している。 可能な限り外出に対する支援は行っている。		
60 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	求めに応じて手紙を代読したりお礼の電話をかける手伝いをしたりと、本人の要望をできるだけ叶えるよう支援している。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しているが事情のある場合は柔軟に対応している。そしてまた面会は大いに歓迎している。 家族からの宿泊の希望にも応じている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
62 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。 念のため同意書は用意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は玄関に鍵をかけないケアを行っている。又、ドアを開閉するとチャイムが鳴るようになっている。ここ数ヶ月激しい帰宅願望の利用者に対しては職員が付添うなどの支援を行っている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず利用者の所在を常に視野に入れて見守り、安全確保に努めている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品及び刃物など危険物となりうるものに関しては鍵のついた保管場所に置くなど事故防止に努めている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる場面を想定し事故の防止に取り組んでいる。ヒヤリハット、事故報告書の様式は整備されている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当てや救急救命の研修を受講している。 緊急時マニュアルも作成されている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災及び災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得ながら年2回定期的に行っている。 災害に備えて必要な食料、水、トイレ、その他寒さをしのげる物品も用意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	施設内外において起こりうるリスクについてそれぞれの家族に説明している。 状況の変化に伴い対応策の見直しも行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、一人ひとりの健康面、精神面について状況把握に努めている。異変が認められた場合は医師、家族と連携をとりながら適切な対応を心がけている。 記録、申し送りにより職員間で共有している。		
71 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の管理、服薬確認を行っている。服用している薬の内容、副作用についても職員全員が確認できるようにファイルしている。状態に変化のある場合は医師と連携をとりながら処方の見直しもされている。		
72 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食材、運動など便秘対策に取り組んでいる。 毎朝排便チェックを行っており改善されない場合は医師の処方により下剤を使用することもある。		
73 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯洗浄、消毒、うがいにより口腔の清潔保持に努めている。 声掛け、一部介助など個々の状態に合わせて対応している。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は系列事業所の栄養士が作成している。 食事は一人ひとりの摂取状態に合わせ、粥、キザミなど対応している。 摂取量は記録し把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防マニュアルに基づいて対応している。うがいや手洗い、必要に応じて薬品による消毒を行っている。 家族、面会者にも情報を提供している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は塩素系の薬品により毎日消毒している。 調理時も手袋をするなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鉢植えの花を置いたり、玄関や建物周囲の照明など明るく入りやすい雰囲気づくりをしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居室、台所などは一般家庭のような雰囲気づくりに努めている。 採光はカーテンで調整している。 テレビの音量は高すぎないように気をつけている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々にソファを置き庭にはベンチを置くなどしていつでも休憩したりできるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用しなじんでいる調度品などは持つて来てくれるよう働きかけている。 居室には家族の写真を飾るなど落ち着けるような工夫をしている。		
81 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いがないように常時換気を行っている。また温度、湿度の調節もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるようにバリアフリーにしており、玄関、トイレ、廊下などに手すりを設置している。浴室にもすべり止めマットを使用するなど安全確保に努めている。		
83 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ゴミ箱、洗濯物を入れるカゴ、掃除用具などは決められた場所に置き、あまり変更しないようにしている。 利用者の状態に合わせ部屋に目印をつけるなど工夫している。		
84 ○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広く前庭は散歩のコースになっている。 又中庭には花壇をつくり周辺には菜園をつくっている。野菜の収穫なども楽しんでいる。		



部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しづつ増えている ③あまりえていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が自分の家で家族と生活しているようにのびのびと過ごせるような環境を提供できるように心がけている。
- ・ADL低下を防ぐためラジオ体操、散歩、リハビリ体操など日課にとり入れている。